

●横浜Yokohama

2021年7月31日(土)、8月1日(日)

時間:7月31日(土)= 開場16:30 開演17:00

8月1日(日)= 開場14:30 開演15:00

会場:KAAT 神奈川芸術劇場〈大スタジオ〉

〒231-0023 横浜市中区山下町281



●京都Kyoto

2021年8月7日(土)・8日(日)

時間:8月7日(土) 開場16:30 開演17:00

8月8日(日) 開場14:30 開演15:00

会場: 京都教育文化センター

〒606-8397 京都市左京区聖護院川原町4-13

- 1991 とりふね舞踏舎 神奈川県茅ヶ崎市に創立。
- 1992 旗揚げ公演『献花』(神奈川県・江の島「天文館」)。
- 1993 フランス・ナンシー市招待『献花』(Salle Pottel)、アウェイコン『献花』。
- 1994 ロシア・ペルミ市、国際フリンジ演劇祭『献花』、アメリカニューヨーク(ラ・ママ)『献花』(Annex Theater) 国際交流基金助成。渋谷『ジアン・ジアン』『献花』。『私が生まれた日』(横浜市・湘南台文化センター市民シアター)神奈川県芸術文化振興財団助成。
- 1995 イタリア・ミラノ市招待『献花』(ミラノ市民演劇祭『献花』国際交流基金助成。三上賀代独舞No.1『夏が来た』(横浜STSポット)。
- 1996 湘南舞踏旗揚げ公演『燦・月譚』開こえますか、私はここにいますー(藤沢市民会館小劇場) 藤沢芸術文化振興財団助成。イタリア、ミラノ市民演劇祭『燦・月譚』開こえますか、私はここにいますー、スペイン、セビーリア公演『献花』(セントラル劇場ギリヤル・アルコス舞踊祭『献花』(アルコス古代遺跡劇場) 国際交流基金助成。
- 1998 『鶴裡考』kokuriko(横浜市・湘南台文化センター市民シアター) 藤沢芸術文化振興財団助成。三上賀代独舞No.2『やすらば花や』(横浜STSポット)。
- 1999 中歐公演ツアー1 スロベニア共和国・リヴリャーナ市『献花』。チェコ共和国・ブラハ市(世界民族音楽祭 "Respect オープニングセレブレーション特別公演『献花』、ブラハ城・スニツェ・ホルリ)、オーストリア・ウィーン市(世界音楽祭『献花』(フカハレディー城・野村劇場) フルノ市公演『鶴裡考』(ホルク・ボリフイ劇場)国際交流基金、横浜芸術交流基金助成。エジプト公演『献花』。『月水抄』(横浜女性フォーラム)神奈川県芸術文化活動団体補助金助成、1999年度横浜女性フォーラム助成。
- 2000 三上賀代独舞No.3 『非時音楽ときくのかのこの方』(横浜STSポット)。新宿『燦・月譚』開こえますか、私はここにいますー(全労済会館/スペース・ゼロ)。
- 2001 『ひのもとーある晴れた、冬の日のお母さまー』(品川アートスフィア)主催・アートスフィア、『鶴裡考』(大阪・吹田市文化会館メインシアター)主催・吹田市教育委員会、関西大学、人体科学界。『ひのもとー』(茅ヶ崎美術館)。2002 中歐ツアー2 スロベニア共和国・リヴリャーナ市、他。『ひのもとーある晴れた、冬の日のお母さまー』、スロベニア共和国・リヴリャーナ旧市街、クロアチア共和国・クロアチア市庁舎前『On the road』、クロアチア共和国・リカ市『献花』、『On the road』 国際交流基金助成。『私が生まれた日』(品川・アートスフィア)。
- 2003 若手・新人公演『寒立馬』かんだちめ(藤沢労働会館ホール)。神奈川県・横浜市『バック・花咲く乙女たちー』(かながわドームシアター)。共催・神奈川県、他。『燦・月譚』(京都大学西部講堂)、『献花』(アズベス館)。アジア舞踊祭『かみの原屋』(シアターX)。
- 2004 アイルランド・ダブリン市『献花』、『寒立馬』(アムステルダム・ベケットシアター)。ダブリン大学構内『On the road』国際交流基金助成。『寒立馬シリーズII』(日向・agan)主催・神奈川県、他。『燦・月譚』(京都大学西部講堂)。
- 2005 とりふね舞踏舎・大磯野外劇場(黒金閣) 柿落し『献花』。
- 2006 『鶴裡考』(かみつき)神奈川県青少年センターホール主催・神奈川県、他助成。京都『献花』(京都大学西部講堂) 寒立馬シリーズIII『花光陰』(大磯野外劇場(黒金閣))。三上賀代独舞Vol.IV『真い山』(大磯野外劇場(黒金閣))。
- 2007 『旗日のダリア』(大磯野外劇場(黒金閣))。寒立馬シリーズV『日向・agan』。
- 2008 イギリス公演ツアー・チェシャー・Tatton Park 野外公演『On the road』(ロンコン劇場)『ひのもとーある晴れた、冬の日のお母さまー』(リパブル・Leap 08)『献花』文化庁助成。『ひのもとーある晴れた、冬の日のお母さまー』(京都大学西部講堂)。東京・新宿『ひのもとーある晴れた、冬の日のお母さまー』(於「全労済会館/スペース・ゼロ」)『鬼燈』(新年立劇場 小劇場) とりふね舞踏舎の会2008。土方養生館周年記念、三上賀代独舞Vol.V『蝶の道』(大磯(黒金閣))。高学年少女予備隊アトリエ公演『斜向日葵』(大磯(黒金閣))。
- 2009 『福高鬼上河原』(大磯(黒金閣))。三上賀代独舞Vol.VI『蝶の道』、『しあわせの日々』(大磯(黒金閣))。寒立馬シリーズVI『だんご』。
- 2010 シアター・提携公演『献花』、『旗日のダリア』(シアターX)。第5回『紅葉の会』ワンコロンシアターDの影踏み。三上賀代独舞Vol.1。おおいそフワフワフェスタ2010参加事業『東海道線のKAGUYA(県立大磯城山公園野外)』(財)全国福祉士共栄会文化財団助成。
- 2011 『逆巻』創刊25周年記念特別公演『献花』(徳島県文化の森「イベントホール」)、『Dの影踏み』(日暮里d-倉庫)。とりふね舞踏舎創立20周年記念公演『GANGIO GANGIOMA-昭和ENK』(全労済会館/スペース・ゼロ)。
- 2012 『ダンスがみたい14』寒立馬シリーズVII『Sai』(日暮里d-倉庫)。2013 京都/徳島公演『GANGIO GANGIOMA』(京都大学西部講堂/郷土文化会館)。
- 2014 KAAT 神奈川芸術劇場・提携公演『献花』、『Sai』。世界遺産・京都・上賀茂神社第42回式年遷宮奉修。三上賀代連展記念公演『献花』。第5回『紅葉の会』。若手アトリエ公演『せりて草』(大磯(黒金閣))。
- 2015 イタリア・ミラノ市トリエンターレ芸術館内劇場『Teatro dell'Arte』(CRT ミラノ財団) 高田川州ラッソ・ネネ市、市庁舎公演(ラッソ・ネネ市招待) 京都・町屋公演『送り火』。
- 2016 座・高円寺提携公演『Sai』。京都・立山小学校提携公演『Sai』。
- 2017 京都・町屋公演、送り火Vol.II『月見る身』。東京・座・高円寺2 三上賀代最後の『献花』。アンスティチュ・フランセ関西・京都提携公演『献花』。
- 2018 京都・町屋公演、送り火Vol.III『真い山』。日仏交流160周年記念事業認定『SAI-サイ』(アンスティチュ・フランセ関西・京都外庭)。
- 2019 京都・町屋公演、送り火Vol.IV『ひもろぎ』。アンスティチュ・フランセ関西・京都提携公演『令和元年 神無月』(紅葉の会)舞踏公演『ふたり』、『ひもろぎ』。
- 2020 ニュー・ブランシュ2020 Kyoto『GANGIO GANGIOMA』(アンスティチュ・フランセ関西・京都・福徳ホール)。
- 2021 とりふね舞踏舎創立30周年記念公演『SAI-サイ』(KAAT 神奈川芸術劇場提携/京都教育文化センター)。



写真:小野塚誠

●チケット発売日:5月28日(金)

【全席指定】共通

●料金 前売 学生3,000円 一般3,500円
当日 学生3,500円 一般4,000円

●カンフェティチケットセンター: 0120-240-540 (受付時間 平日10:00~18:00)(セブンレブン券券)

https://www.confetti-web.com/torifunebutohsha

●直接販売【郵便振替】
口座番号:00270-7-49323 振込先:とりふね舞踏舎

●販売・問合せ:torifune_ticket@hb.tp1.jp
torifunebutohsha@hb.tp1.jp



とりふね舞踏舎



構成・演出・振付=三上賀起夫
作曲=J・A・シーザー
出演=三上賀代、湘南舞踏派、平安舞踏派
万有引力(賛助出演)
若林淳(ゲスト)

<横浜公演取扱>
●チケットかながわ <https://www.kaat.jp>
0570-015-415(10:00~18:00)
<KAAT 神奈川芸術劇場2階(10:00~18:00)>
<京都公演取扱>
●京都教育文化センター



●三上賀代(主宰)
舞踏家、とりふね舞踏舎主宰。
お茶の水女子大学国文科卒。学術博士(舞踊学)。京都精華大学教授。徳島県出身。
舞踏創始者・土方巽、野口体操創始者・野口三千三に師事。'93年 ANZ 堂より舞踏研究の先駆的著書『器としての身体-土方巽・暗黒舞踏技法へのアプローチ』(修士論文) 出版。'15年春風社より『増補改訂 器としての身体』(博士論文) 出版、同著は'16年に英国 Ozaru Books より『The Body as a Vessel』として出版。とりふね舞踏舎の全作品に主演。狂気を秘めた優美さに定評。『夏が来た』シリーズ、京都の町屋での『送り火』シリーズなどの独舞公演がある。



●三上有起夫
とりふね舞踏舎代表、「からだの教室」主宰。作家、演出・振付家。仏、世界青年演劇センター(C.U.I.F.E.R.D)奨学生。演劇実験室「天井桟敷」時代の'71年、同劇団のヨーロッパツアー(仏・ナンシー演劇祭、パリ、Les Halles公演、オランダ・ミクリ劇場公演)をプロデュース。同劇団退団後、フリーライターとなり、雑誌に旅行記、映画評論等連載。著書に『ハミングバードはもう鳴かない』(カドカワノベルズ)『関係-Between』(コミュニティ・ブックス)。とりふね舞踏舎の主要全作品の構成、演出、振付を担当。

●若林淳(ゲスト)
大駱駝艦出身の舞踏家。
同艦に所属のまま'93年のとりふね舞踏舎の海外公演『献花』に参加。
以来、仏・露・米・伊等の海外公演に帯同、とりふね舞踏舎初期の国内外の公演活動を支える。
『燦・月譚』初演に助演者として抜擢された。身体の柔軟性、またそのデモニッシュな動きは、ミラノ公演において圧倒的存在感を示した。'07年大駱駝艦を離れ、フリーとなってからは、舞踏活動をつづけながら多くの映像、舞台等に出演。「波さ知らず」のダンサーとしても知られている。
'14年の京都上賀代神社奉納公演以来のとりふね舞踏舎出演となる。



Sai
サイ

白川静「字統」(平凡社)

とりふね舞踏舎

'91年、三上賀代の土方巽暗黒舞踏論(お茶の水女子大学修士論文)を基に元・天井桟敷の三上有起夫が神奈川県茅ヶ崎市に創立。'92年江の島「天文館」において、旗揚げ公演『献花』。翌年にフランス公演(アビニオン祭他)敢行、現地プロデューサーの目に留まり海外公演の道が拓かれ、'94にロシア、アメリカ公演となった。以後積極的に海外展開を図る。国内においては、一般人(平均年齢50代)と共に作品『私が生まれた日』を発表。「これまでになかった舞踏の全く新たな展開」と評価され、これを期に一般市民からなる舞踏集団「湘南舞踏派」を傘下に組織し、とりふね舞踏舎の公演体制を確立。二年に一作の新作を発表し続ける。仏・米・露・伊・西・英・中欧他、13か国23都市にて公演。'01京都に「平安舞踏派」を傘下団体として組織。'04活動拠点を茅ヶ崎から神奈川県大磯に移し、山中に野外劇場〈黒金閣〉建設。アトリエ公演、新人公演、ワークショップ(合宿)などを行い、積極的に舞踏家養成を行う。

●公式HP: <http://www.torifune-butoh-sha.com/> ●Google/Arts & Culture: <https://artsandculture.google.com/partner/torifune-butoh-sha>

●上演作品【Sai】

2012年、東京・日暮里d-倉庫『ダンスが見たい!14』企画の〈寒立馬 Vol.6『サイ』〉が初演。とりふね舞踏舎の傘下集団「湘南舞踏派」の結成20周年記念作品として上演。「極寒の下北半島の放牧馬」寒立馬、恐山やその周辺の霊性が強く感じられた。墓が庭やあぜ道にあり、といった印象、そこにある佇まい、祈りの形象……とりふね舞踏舎の最高作」との評があった。本作品『SAI』は、戦後日本の復興と未曾有の大震災を重ね合わせてそのエネルギーを動的にとらえた作品『GANGIO GANGIOMA』(11)の姉妹編として〈どんな最悪化にあっても「踊るべき人は踊り、戦うべき人は歌うべき」〉との強い信念のもとに制作された作品である。KAAT 神奈川芸術劇場(14)、座・高円寺(16)、京都、元・立誠小学校講堂(同年)において手直し修正再演。国外では'15年にイタリア・ミラノ市トリエンナーレ・デザイン美術館内劇場「Teatro dell'Arte」にて公演、終演後も観客の多くが場内に長く留まるといふ珍事となり、現地劇場関係者を驚かせた。世界的コロナ禍の現状に際し、「いかなる災厄をも人類は乗り越えてきた」という思いを強くし、とりふね舞踏舎の創立30周年記念公演として本作品を選んだ。

●キャスト

●三上賀代、小川あつ子、沢田樹里、村上皇太后、平井紫乃、中井公、五月女侑希、檀原由香里、Eri Liao、長谷川彌、ほし☆さぶろう、正學居士、鐵羅佑、平大記
湘南舞踏派、平安舞踏派 ●万有引力 = 高田恵篤、森ようこ、三好嘉武人、内山日奈加 ●ゲスト = 若林淳

●スタッフ

●構成・演出・振付 = 三上有起夫 ●作曲 = J・A・シーザー ●舞台美術 = 小林芳雄 ●照明 = (有)アンビル ●音響 = 新明就太 ●衣裳 = 北上亜矢 ●染 = 辛島廣子
●衣裳制作 = 湘南舞踏派(内田征代) ●宣伝美術 = 森崎偏陸 ●写真 = 真下修平、小野塚誠 ●英ロゴ = 榎本了壺 ●題字・和ロゴ = 山内清城 ●制作補 = 谷仲芙美、左近充桃子
●舞台監督 = 吉村聡浩
●主催 = とりふね舞踏舎
●後援 = 京都精華大学、CEKAI ●提携 = KAAT 神奈川芸術劇場(横浜公演)
●協力 = 演劇実験室(万有引力)、湘南舞踏派、テラヤマワールド、中澤祐海、高橋優太、ポスターハリス・カンパニー
●制作 = 岩木すず(京都) ●総制作 = とりふね舞踏舎(三上太朗)

●舞踏ワークショップ

●平安舞踏派(京都) 下記にご連絡の上、ご確認ください。
【連絡先】 heianbutohha@gmail.com 090-1191-6841 (平井)

●とりふね舞踏舎(大磯稽古場)

場所: とりふね舞踏舎・大磯野外稽古場〈黒金閣〉 期日: 毎日曜日
時間: 13:00 ~ 14:30(野口体操をベースとした「からだのほぐし」) 15:00 ~ 17:00(舞踏)
【連絡先】 torifunebutohsha@hb.tp1.jp



小川あつ子



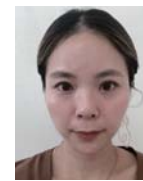
沢田樹里



村上皇太后



平井紫乃



中井公



五月女侑希



檀原由香里



Eri Liao



長谷川彌



ほし☆さぶろう



正學居士



鐵羅佑



平大記



高田恵篤



森ようこ



三好嘉武人



内山日奈加



三上賀代著
『器としての身体-土方巽・暗黒舞踏技法へのアプローチ』春風社
『The Body as a Vessel』英語版 Ozaru Books(UK)



KAAT 神奈川芸術劇場

〒231-0023 神奈川県横浜市市中区山下町281
TEL.045-633-6500(代表) FAX.045-681-1691
<http://www.kaat.jp/>

- みなとみらい線: 渡谷駅から徒歩35分 横浜駅から6分
- 日本大通り駅から徒歩約5分。元町・中華街駅から徒歩約8分。
- JR根岸線: 関内駅または石川町駅から徒歩14分。
- 市営地下鉄: 関内駅から徒歩14分。
- 市営バス: 芸術劇場・NHK前すぐ。
- 横浜駅前東口バスターミナル2番のりば乗車(所要時間約25分)
- 桜木町駅前バスターミナル2番のりば乗車(所要時間約10分)
- 上記のりばから発するバスはすべて「芸術劇場・NHK前」を通ります。ただし、148系統急行線を除く。
- 神奈川芸術劇場有料駐車場(65台)もご利用下さい。
- 指定管理者: (公財)神奈川芸術文化財団



京都教育文化センター

〒606-8397 京都市左京区聖護院川原町4-13
TEL.075-771-4221

